

除雪ボランティア「スコップ」の 試行的受入について

平成21年1月

新潟県地域政策課雪対策室



(項目)

- 県内の除雪ボランティアの状況
 - 除雪ボランティア「ス Copp」の状況
- 3．平成19年度除雪ボランティア「ス Copp」の取組
 - 3-1 除雪ボランティアとの協働化フォーラム
 - 3-2 除雪ボランティア「ス Copp」の試行的受入
 - 4．平成20年度除雪ボランティア「ス Copp」の取組

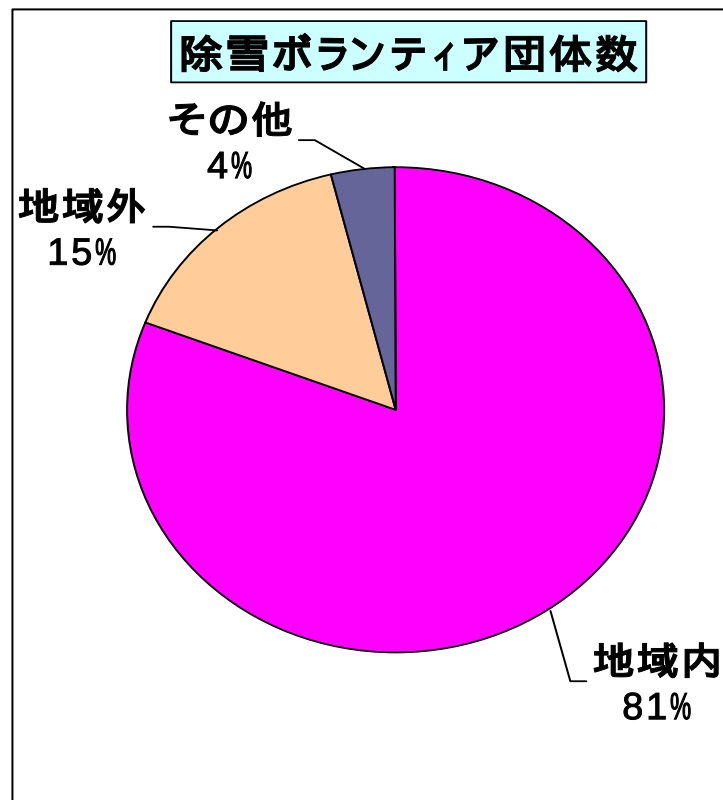
1.県内の除雪ボランティアの状況



県内の除雪ボランティアの状況(H19.10.1現在)

■ 団体数 26団体 (H16.5
(前回調査時) 20団体)

- 地域内ボランティア 22団体
(H16.5 16団体)
- 地域外ボランティア 3団体
(H16.5 3団体)
- その他のボランティア 1団体
(H16.5 1団体)



地域内ボランティア・・・市町村内の地域住民を主として行っているもの
地域外ボランティア・・・市町村外の参加者を主として行っているもの
(交流などを目的としているものを含む。)

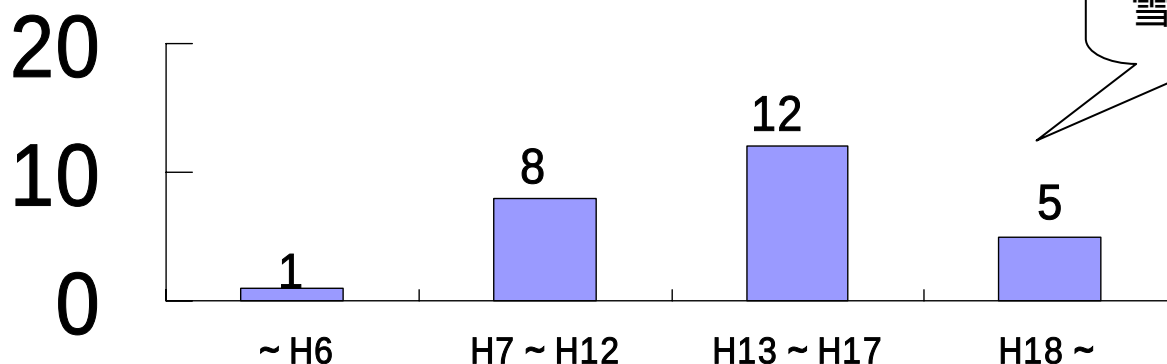
県内の除雪ボランティアの状況(H19.10.1現在)

■ 発足(活動開始)年次

～ H6 1団体、H7～H12 8団体

H13～H17 12団体 H18～ 5団体

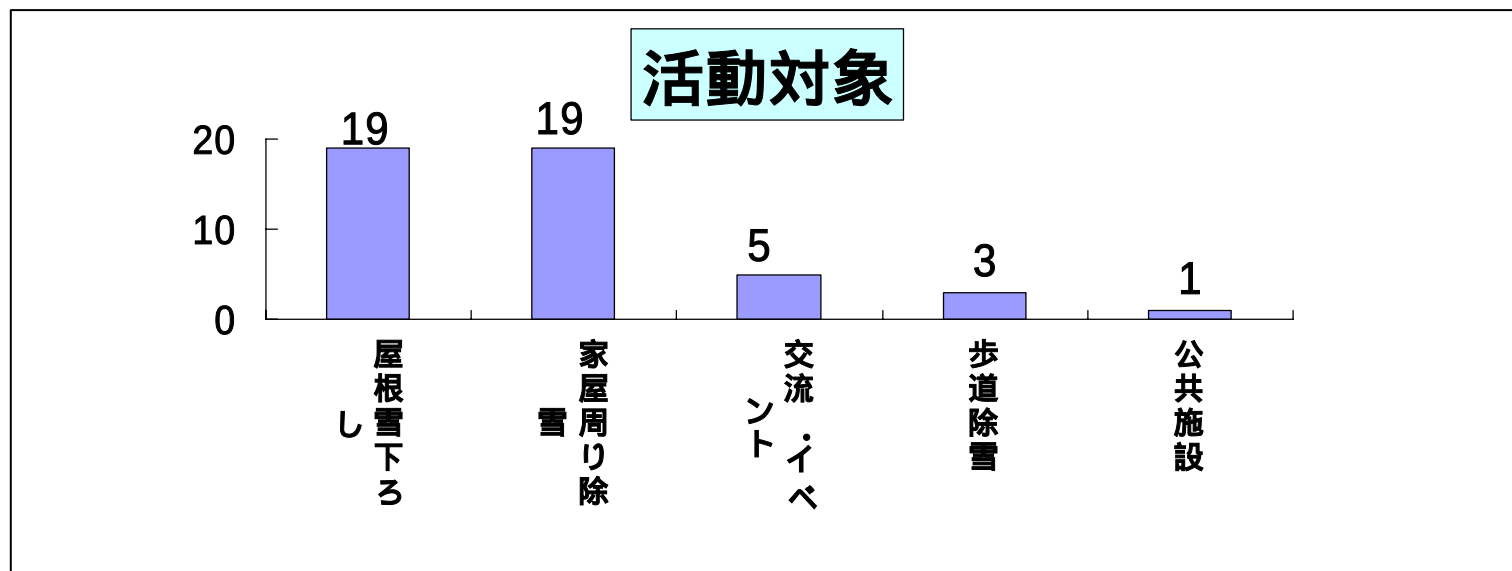
発足(活動開始)年次別一覧表



平成18年豪雪以後発足

県内の除雪ボランティアの状況(H19.10.1現在)

- 活動の対象(複数回答)(全26団体)
 - ・ 高齢者世帯等の屋根雪下ろし 19団体(73.1%)
 - ・ 高齢者世帯等の家屋周りの除雪 19団体(73.1%)
 - ・ 交流を目的としたイベント 5団体(19.2%)
 - ・ 歩道除雪 3団体(11.5%)
 - ・ 公共施設(集会所等) 1団体(3.8%)
 - ・ その他 バス停や横断歩道付近の除雪 など



2. 除雪ボランティア「スコップ」の状況

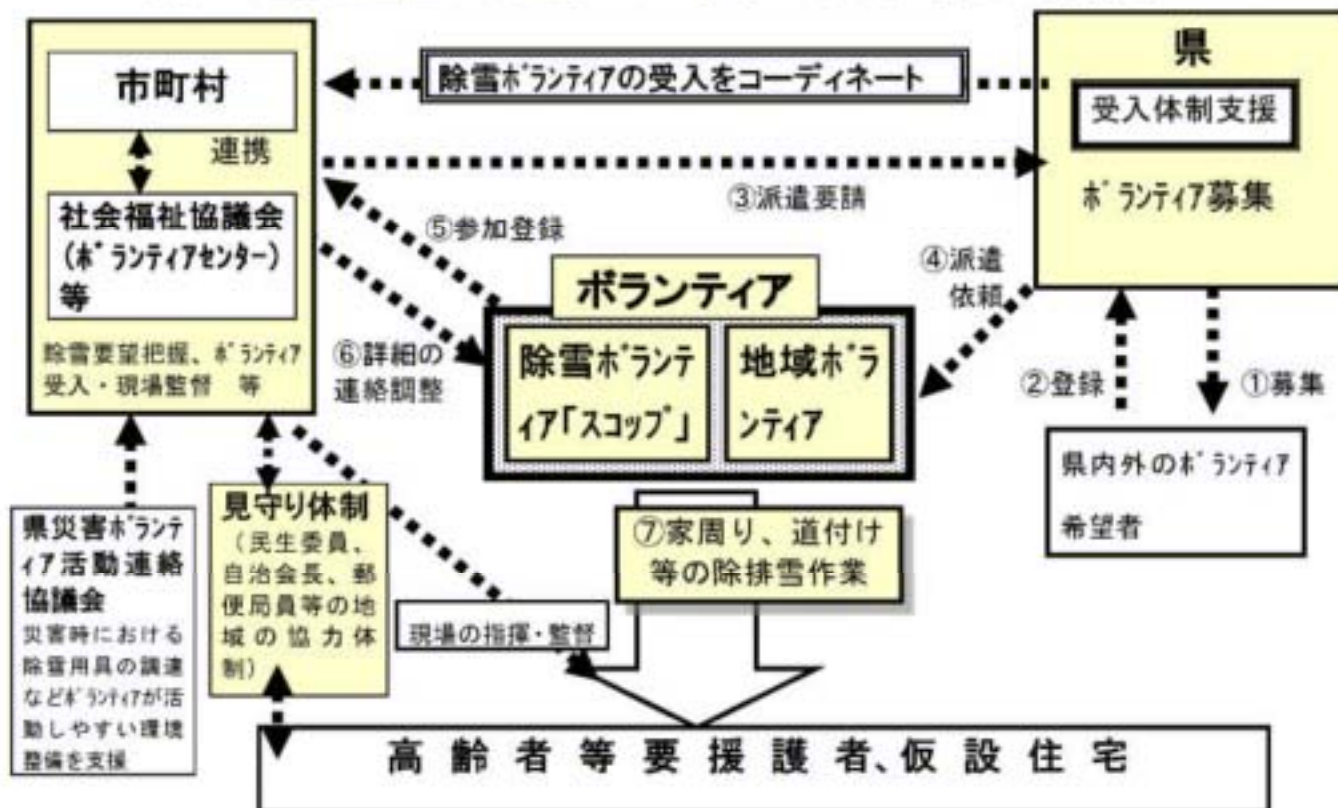


除雪ボランティア「スコープ」の概要

- 1 目的 雪処理の担い手が不足する地域における要援護世帯等の雪処理負担の軽減を図る。
- 2 内容 要援護世帯等の家屋周りの除雪作業等
屋根雪下ろしは、安全を考慮して原則として実施しない
- 3 登録者数 815名(平成20年12月1日現在)
- 4 事務局 新潟県地域政策課雪対策室
- 5 活動開始 平成10年度

除雪ボランティア「スコープ」の仕組み

雪処理担い手としてのボランティア等との協働イメージ

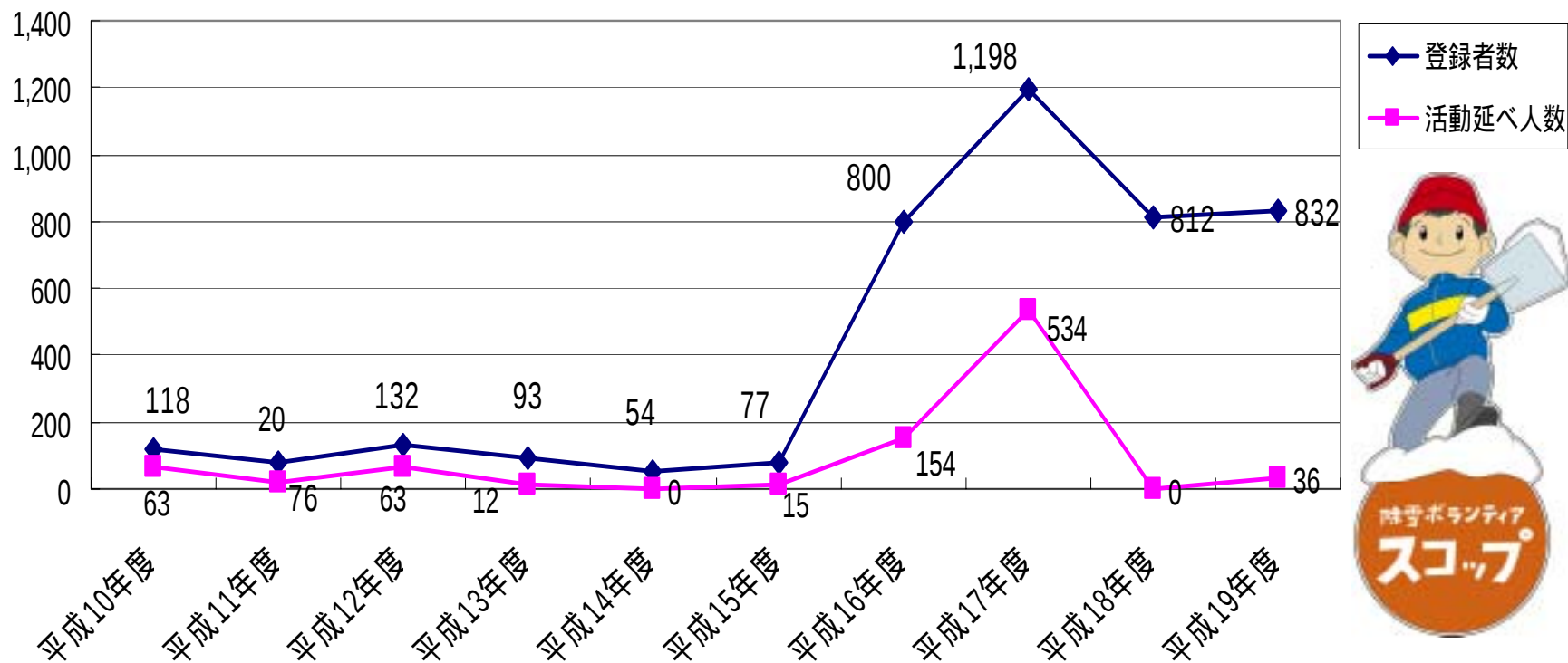


除雪ボランティア「スコップ」の状況

除雪ボランティア「スコップ」の登録者・活動の状況

除雪ボランティア「スコップ」登録者、活動延べ人数の推移

(人)



除雪ボランティア「スコップ」の状況(H20.12.1現在)

除雪ボランティア「スコップ」登録状況

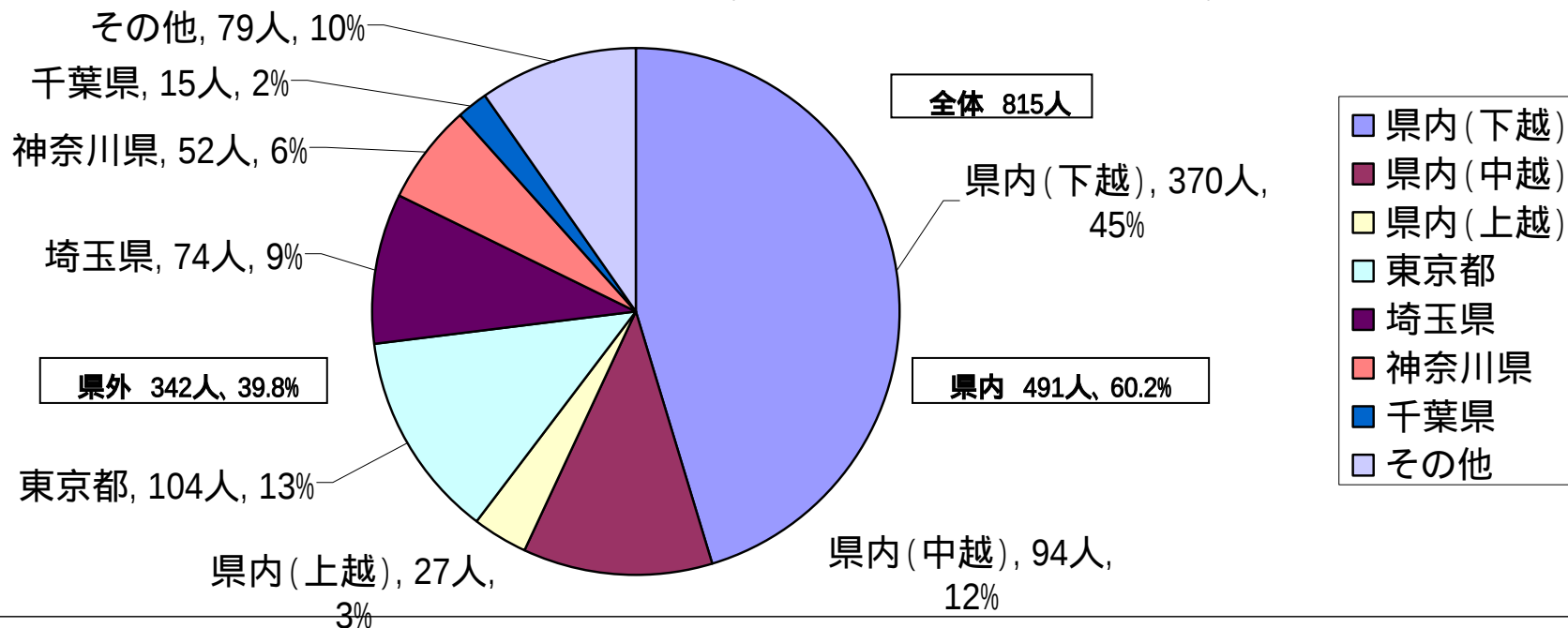
		個人登録		団体登録		団体登録内の登録者		個人、団体の登録者合計	
		人数	割合	団体数	割合	人数	割合	人数	割合
合計人数・団体数		289		59		526		815	
住所	県内	106	36.7	22	37.3	385	73.2	491	60.2
	県外	183	63.3	37	62.7	141	26.8	324	39.8

除雪ボランティア「スコップ」の状況(H20.12.1現在)

「スコップ」登録者の現住所別割合

- 県内の登録者 60.2% (491人)
- 関東の登録者 30.1% (245人)

スコップ登録者の住所別割合(個人登録者・団体登録者合計)



除雪ボランティア「ス Copp」の状況

市町村における除雪ボランティア「ス Copp」の主な受入課題(聞き取り調査・複数回答) 19 特別豪雪地帯市町村(H19.10.1調査)

- 公平性の確保 9市町村
 - 受入体制の未整備(人的体制、コーディネート知識) 8市町村
 - 屋根雪下ろしを行わない 7市町村
 - 緊急時への対応が不可能 7市町村
 - 事故等への対応が困難 7市町村
 - 除雪初心者では力にならない 7市町村
 - 受入の事務負担が大きい 4市町村
- 等

3.平成19年度除雪ボランティア「スコップ」の取組



3-1 除雪ボランティアとの協働化フォーラム

- 1 目的 除雪ボランティアと市町村職員、住民などボランティアの受入側との相互理解と交流の促進
- 2 開催日 平成19年10月13日(土)
- 3 会場 新潟県湯沢町
- 4 参加者 38名
- 5 内容 ワークショップ形式による参加者の自由な意見交換
集約した意見等は、その後の取組に反映



1 ボランティアや住民からみた市町村等受入先に求められること

情報提供

事前の情報提供

- ・ 現地情報（地区の情報、宿泊先、交通案内、地理情報、作業内容、など）
- ・ 除雪の情報（装備、持参品、注意点、タブー）

当日の情報提供

- ・ 安全な除雪方法
- ・ 住民の要望・してもらいたいこと
- ・ トイレ等の現地情報

除雪以外の視点

- ・ 1年を通じた交流に
- ・ 日常的な交流となる仕掛け
- ・ 地元の方々との交流の場の設定も
- ・ その後の交流の場の設定
- ・ 話し相手など除雪の他の取り組みも
- ・ 地元の魅力紹介

受入体制の整備

- ・ 受入窓口は一つに
- ・ 対象者の公平な選定
- ・ 計画的な受入
- ・ コーディネーターを配置
- ・ 除雪用具の手配（貸出）
- ・ 行政と受け入れ先との情報の共有
- ・ 住民の理解（広報）
- ・ 排雪、残雪の処理方針
- ・ 地元の人も協力、慣れた人の協力
- ・ 受け入れ先もルールを守る
- ・ 地元のリーダーの養成
- ・ 事務的ではなく気持ちを込めて

参加しやすい工夫

- ・ 除雪経験がなくてもできる作業を考える。
- ・ ボランティアへのフォロー
- ・ ボランティア保険料の負担
- ・ ボランティアの負担軽減（昼食などの炊き出しの提供、お茶くらいはいれては、交通費の軽減（JRとの提携？））
- ・ 家族できてもらう取り組み（ボランティアファミリープラン）

2 市町村や住民など受入先からみたボランティアに求められること

ルール・マナーを守る

事前の準備

- ・ボランティアをする際の最低限の知識を
- ・受入先の情報を確認（広報、HP）
- ・雪は危険であるとの認識をもって参加
- ・除雪は重労働だと覚悟が必要
- ・観光気分で参加しない。
- ・最低限の準備を（用具、防寒着、帽子など）

思いやりをもって

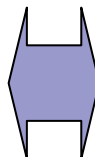
- ・笑顔であいさつ
- ・作業ではなく寄り添いの精神で
- ・交流する気持ちをもって

作業の心得

- ・作業内容などを把握
- ・自分勝手な行動はしない（屋根から飛び降りない）
- ・指示を守る（注意事項、要望など）
- ・無理をしない
- ・自己完結型（宿泊、食事、着替えなど）
- ・ボランティアの志（目的）をちゃんと
- ・無断でキャンセルしない。
- ・体調が悪いときは申し出る。
- ・声掛け合って除雪活動を
- ・自分でできること、できないことをはっきりとして行動を
- ・技術の申告（適正な）
- ・体調管理をしっかり（事前、事後）

作業効率等のアップ

- ・ボランティアのスキルアップ
- ・現地状況（冬場の雪国、安全の知識）をよく知る。
- ・除雪経験豊かな人たちとの組み合わせ
- ・小型除雪機などを使える人がいたらいいな
- ・高齢者の話し相手もありうるのでは



（課題）

- ・緊急時は難しい。（即時性がない）
- ・マッチングが難しい
- ・どう協働してよいかわからない
- ・「来たい」と「来てほしい」の思いがつかない

3 豊かな雪国をつくるためにボランティアと協働でできること

ボランティアの潜在的希望者は多い

豊かな交流を目指して

雪が宝だと思える取組

第二の故郷と思えるように

心と心の交流→新しいつながり

雪国の楽しさを活かす

雪国文化の伝承

年間を通した交流

顔の見える取組へ

双方向の取組へ

地域活性化、過疎対策に

ボランティアをきっかけとしてその他の取組へ

生活と交流の融合

- ・ 通年で知っている方が毎年来てくれるような取り組み
- ・ 住民と顔のつながる継続性のある活動
- ・ 団体との地域とのつながり
- ・ コーディネーターの工夫
- ・ あとのフォロー（手紙など）
- ・ 情報交換
- ・ 雪かき以外の取組(話し相手、買い物、見守りなど生活支援)
- ・ 町内の祭への招待など

雪だるま・かまくら・雪像づくり、レジャーとの組み合わせ

交流、PR、イベント参加、除雪以外のボランティア

観光協会とタイアップ

ボランティア受入の風土づくり、ボランティアと受入先の互恵の仕組みづくり、ボランティア募集の専門組織

3-2 除雪ボランティア「スコープ」の試行的受入

課 題

市町村等における必要性の認識

- ・除雪は自助が原則、福祉制度等で足りている
- ・住民からの要望がない

市町村等における課題意識（懸念）

- ・事務負担拡大への懸念
- ・安全面で責任がもてない
- ・一部導入は公平性の面で課題
- ・受入ノウハウ、コーディネート知識がない

除雪ボランティア自体の制約・使いづらさ

- ・必要とする場面で使えない（屋根雪処理は行わない等）
- ・即時の対応が困難
- ・安定的・継続的な確保が困難
- ・地域の事情に不慣れ

除雪ボランティアの資質

- ・技術が未熟

対応方針

市町村等の理解促進

受入の知識・ノウハウの提供

よりよい協働化の検討

ボランティアの技術向上

除雪ボランティア「スコープ」の試行的受入

< 目的 >

- ・除雪ボランティアと受入側の市町村等との相互理解
- ・市町村等のコーディネート知識等の習得
- ・ボランティアの技術向上

< 内容 >

技術講習会（NPOとの連携）と除雪ボランティア活動とのミックス

< 実施地区 >

十日町市枯木又地区、南魚沼市大倉地区

(1) 除雪ボランティア「スコップ」の試行的受入

- 第1回スコップの雪ほりキャンプ(十日町市枯木又)
平成20年2月21,22日 参加者19名
- 第2回スコップの雪ほりキャンプ(南魚沼市大倉)
平成20年2月28,29日 参加者26名

■ 日程

- 1日目(午後から) ・地元の方等によるかんじきの履き方・雪かき作業などの講習
- 1日目(夜) ・地元の方との交流会
- 2日目(午前中) ・高齢者宅等の除雪活動

十日町市役所、南魚沼市役所・南魚沼市社協との協力により実施

除雪ボランティア講習会の様子



地元の方によるかんじきの履き方やスコップの使い方の指導

除雪ボランティア活動の様子



除雪活動の実践



廃校となった校舎の屋根雪ほり

除雪ボランティア活動の様子



除雪活動の実践



除雪ボランティア活動の様子



集合写真



地元の方との交流会

(2) 除雪ボランティア活動

■ 除雪ボランティア活動(十日町市枯木又)

家屋周り 4軒、地区内共同車庫屋根雪 2棟、枯木又分校屋根雪

平成20年2月21, 22日に十日町市枯木又で実施した除雪ボランティア講習会を契機として、高齢者住宅等の除雪活動を実施



除雪ボランティア活動の様子



高齢者世帯の除雪活動



集落内車庫の除雪活動

除雪ボランティア活動の様子



集合写真



廃校となった校舎の屋根
雪はけ

アンケート意見等 (H20.3.8・9 枯木又除雪ボランティア活動)

< ボランティア >

- 地元の方から色々アドバイスをいただいたためスムーズに作業ができた。
- 初心者に雪ほりとはどのようなものか、楽しみながら経験してもらうこともよいのでは。ただし、地元の方が本当に必要なときに参加する人をどのように募るのが課題
- ボランティアに対する関心が深まった。
- 地元の方々が本当に必要な時に参加したい
- 時間・作業量ともに「やや短い」
- 地元の方の負担が減らせる工夫が必要。ボランティアの負担と地元の方の負担のバランスが鍵

アンケート意見等 (H20.3.8・9 枯木又除雪ボランティア活動)

< 地元 >

■ 除雪技術等

- 基本的なことさえ教えればあとは回数を重ねて体で覚えていくこと
- 思ったよりたくさんの除雪の仕事をしてもらった
- 一人で2時間近くかかる作業が30分足らずで終わったのを見て大勢の力はすごいものだと改めて思った。
- 服装などきちんとしていた。

■ 課題等

- ボランティアが必要な時は地元も人手が不足。食事の準備など地元の負担を少なくしないと
- 時期を早めた方がよい

■ その他

- 除雪ボランティアが重要なことが改めてわかった。いざという時にすぐに対応できるようお願いしたい。
- お客様気分でなく、地に着いた活動をしようという姿勢が見られて今後も継続していくことによって充実してくると思う。
- 若い人たちが来たことにより地元が明るくなった。
- 地元としては除雪だけでなく1年を通じてお付き合いができれば大変ありがたい。

4.平成20年度除雪ボランティア「スコップ」の取組



平成20年度除雪ボランティア「ス Copp」の取組

課 題

対応方針

市町村等における必要性の認識

- ・除雪は自助が原則、福祉制度等で足りている
- ・住民からの要望がない



市町村等の理解促進

市町村等における課題意識（懸念）

- ・事務負担拡大への懸念
- ・安全面で責任がもてない
- ・一部導入は公平性の面で課題
- ・受入ノウハウ、コーディネート知識がない



受入の知識・ノウハウの提供

除雪ボランティア自体の制約・使いづらさ

- ・必要とする場面で使えない（屋根雪処理は行わない等）
- ・即時の対応が困難
- ・安定的・継続的な確保が困難
- ・地域の事情に不慣れ



よりよい協働化の検討

除雪ボランティアの資質

- ・技術が未熟



ボランティアの技術向上

平成20年度の取組

市町村等への周知・啓発

- ・除雪ボランティアに対する理解促進のため、継続的に周知・啓発活動を実施（雪セミナー等）

試行的実施のコーディネート

- ・昨年度に引き続き、除雪ボランティアの受入をコーディネート
- ・講習会を廃止し、実践的活動によりスキルアップ
- ・試行的実施を通じて、課題への対応を検討

インセンティブの創設

- ・除雪ボランティアとの協働化を促進するためのインセンティブを検討中

「スコップ」の除雪ボランティア活動参加者募集中!!

南魚沼市と十日町市で除雪ボランティア活動を行います。初心者には、地元の方が、初歩からお教えしますので気軽にご参加ください。

また、地元の方との交流会も行います。

第1回「スコップ」除雪ボランティア活動 in 枯木又（十日町市）

日時：H21.1.31(土)13:00 ~ 2.1(日)15:30

場所：新潟県十日町市枯木又地区

定員：25名

宿泊：希望者は、枯木又地区の「交流施設のっとこい」に宿泊できます。

宿泊費(1泊3食付き) 5,500円程度

第2回「スコップ」除雪ボランティア活動 in 大倉（南魚沼市）

日時：H21.2.7(土)13:00 ~ 8(日)15:30

場所：新潟県南魚沼市大倉地区

定員：25名

宿泊：希望者は、八海山麓サイクリングターミナルに宿泊できます。

宿泊費(1泊3食付き) 7,500円程度

<対象者> 除雪ボランティア「スコップ」メンバー、除雪ボランティアに興味のある方

<内容> 1日目 午後 高齢者宅等の除雪作業
初心者の方には用具の使い方の指導も行います。
夕方 地元の方との交流会
2日目 午前～15:30 高齢者宅等の除雪作業

